



学生部

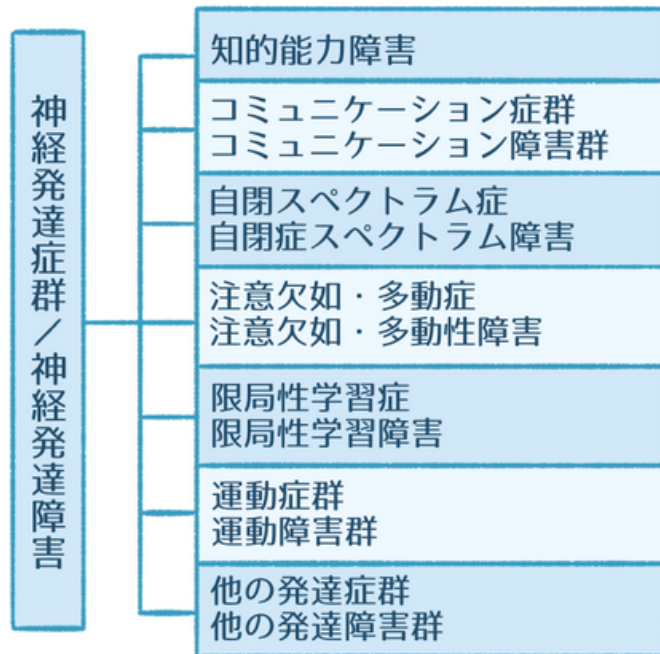
目次

1. 発達障害について
2. 応用行動分析について
3. 学生部の活動について



1.発達障害について

アメリカ精神医学会出版の「DSM-5」では「神経発達症群」というカテゴリーがあり、これがいわゆる発達障害です。



発達障害の原因は、まだ解明されていませんが、先天的な障害であり、生まれてからの環境や育て方が原因ではありません。

症状の現れ方や程度が一人ひとり異なるのも特徴で、発達特性に合った環境と関わりが必要となりますが、環境を調整し行動に働きかけることで、本人のペースで色々なことが学べるということが明らかになっています。

文部科学省の2022年の調査結果では、通常学級に在籍する小中学生の8.8%に発達障害の可能性があることも明らかになっており、誰もが出会う障害と言えます。



コラム

自閉スペクトラム症は、

①コミュニケーションの障害

②興味や行動への強いこだわり

という2つの特徴を併せ持つ特徴があります。

～「スペクトラム」とは？～



スペクトラムとは、英語で「**連続体**」という意味です。

定型発達・軽度・重度の境界線が不明瞭な点、特性の強弱や現れ方が個人によって異なる点で、自閉スペクトラム症は濃淡があるものとして捉えられています。

2.応用行動分析(ABA)について

◎ABAの特徴

ABAでは、個人の行動を「個人と環境との相互作用の結果」と捉えます。環境側の刺激を調整することでお子さんの特性に併せた学びを促します。行動を、ある行動の前、行動、行動の後の3つの箱で捉え、行動の前後を操作することで、行動を変容することができます。

～ABAの教え方～

先行刺激



簡潔な指示や分かりやすい教材で働きかける

行動



反応や、課題が難しい場合はプロンプト（お助けヒント）で手助けする

後続刺激

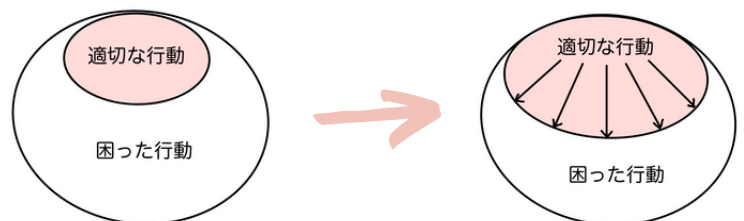


お子さんが反応できたら、直後に好む物や活動、褒め言葉を提示する

◎ABAでできること

1.困った行動の分析と適切な対処

ABAの理論を用いることで、お子さんの困った行動がどのような機能を持っているのか見極め、もっと適切な別の行動に置き換える支援ができます。



2.日常生活における子育ての工夫

生活に必要なスキルや日常的な活動などを、普段の生活場面に近い環境でスモールステップにわけて教えられる。



3.認知・コミュニケーション機能の底上げ

発達過程でお子さんが獲得するとよい基礎的な機能を、集中的・効率的に教えることができます。

3. 学生部の活動について

◎ 学生部について

学生部には、応用行動分析（ABA）に基づく発達支援に興味を持った首都圏の大学生が集まっています！

学生が主体となって企画と運営を行う「学生ボランティアコース」と、発達支援の実際の現場にかかわる「学生インターンコース」があります。あわせて15名程度が活動しています。

2022年12月には、学生部主体で託児ルームを開催しました。当日はADDSkids1st荻窪に通ってくださっている8名のお子さまと、学生12名が下記の3つの企画と一緒に遊びました。お子さまの楽しそうな姿がたくさん見られました！

○キラキラ虫を捕まえよう！

ティッシュ箱の中にいるキラキラ虫を捕まえるおもちゃを作成しました。おもちゃの作り方を最後のページに載せているので、よろしければご家庭でつくってみてください！

○触ってすくって引っ張ってお宝を探そう！

紙を雪に見立てたプールの中やトンネルの中など、様々な場所にあるボールを探す宝探しを行いました。

○お祭りを楽しもう！

新型コロナウイルスの影響でお祭りが減っている…ということで、お面づくりとわなげでお祭り気分を味わいました。



◎学生セラピストへの道

学生も研修とテストを受け、正式にセラピストになります。
以下の研修を受けたうえで、さらに試験に合格しなければセラピストとしてお子さんに支援出来ない仕組みになっています。

①座学研修

早期発達支援の必要性からセラピストの倫理規範までを幅広く学びます。

②実践研修

実際に複数人のお子さんや保護者の方々と対面してセラピストに必要なスキルを学んでいきます。

◎お子さまとの関りについて (学生セラピストより)

○環境の工夫について

必要のない物は棚の上に置くなど、お子さんが落ち着いて過ごせる環境設定を意識しています。事前に環境を整えておくことで困った行動等も起きにくくなります。

○感覚過敏があるお子さまへの工夫

身体に触る支援や、大きな音の鳴るもの等苦手な感覚の玩具や教材については、嫌な刺激がある場合には、お子さまの様子を適宜確認しながら気を付けて支援をしています。



◎学生部の声



Aさん（学生インターンコース）

普段から、他の子と比べたりせず、あくまでもその子に合った関りをすることを大切にしています。例えば、音声指示が通りやすいお子さんには声掛けを中心にするなどしてできるだけ負荷の高まらない関わりをしています。



Bさん（学生インターンコース）

安全面を気を付けつつ、好きなものややりたい遊びを一緒にできるように意識しています。まずは、仲良く遊んでくれる人！というイメージを持ってもらい少しずつ信頼関係の構築をしています。



Cさん（学生ボランティアコース）

座学で学んだABAの効果や、託児ルームの企画を通じて体感することができて、学生として大きな学びができたと思います。「予定されていた遊びをしてほしい」と思ってしまいがちでしたが、そうでなくてもお子さんが楽しんでステップアップできればそれがベストと思えるようになりました。





Dさん（学生ボランティアコース）
託児ルームの企画にお子さんが楽しそうに参加してくれて、頑張って準備をしてよかったと嬉しく思いました。今回の企画を通じて、改めてお子さんを支援する仕事がしたいと思いました。



Eさん（学生ボランティアコース）
しっかりとお子さんとかかわることができたのは託児ルームが初めてだったので、良い経験になりました。お子さんが「おもちゃとって」とこちらにお願いしてくれた時は、信頼してくれたのかなと嬉しくなりました。

◎保護者さまからの言葉

勉強熱心な先生方は、自閉症児と家族に大変心強い味方です。「先生来るよ」と言い自分で強化子を用意する子どもの姿に、先生との信頼関係が出来上がっていることを嬉しく思っています。その成長に、保護者側も安心してセラピーをお願い出来ます。感謝の気持ちと今後のご活躍を期待しています。
(通所支援＋訪問支援ご利用の保護者さま)

◎学生セラピストの歩み

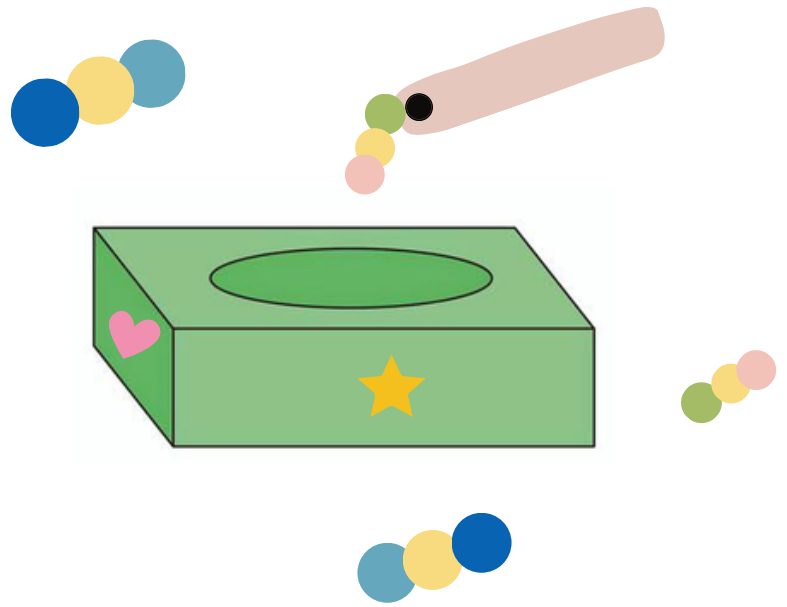
学生部を卒業したセラピストは、ADDSでの経験を活かしながら、次のような進路を歩んでいます。

- ・ 教育関係 － 小学校・特別支援学校、幼稚園
- ・ 医療関係 － 病院やクリニック（看護師、臨床心理士、言語聴覚士）
- ・ 福祉関係 － 児童発達支援事業所、ケースワーカー、社会福祉士
- ・ 大学院進学
- ・ その他: 食品商社、金融、アパレル、教育福祉系企業など

おもちゃの作り方

【用意するもの】

- ティッシュの空箱
- フェルトボール
- モール
- 割り箸
- 磁石
- マスキングテープ
- シールなどの飾り付け



【作り方】

1. モールにフェルトボールを3個通し、キラキラ虫を作る。
2. マスキングテープを使い、割り箸に磁石をつける。
3. ティッシュの空箱を自由に飾り付ける。
4. ティッシュの空箱にキラキラ虫を入れ、磁石で捕まえて遊ぶ。

(参考:「あんの遊びチャンネル」, <https://youtube.com/@ANasobi>)

ADDSについて

ADDSのHPも

ご覧ください▶▶▶

